

第2回 明石市財政及び公共施設のあり方に関する検討会（議事要旨）

日 時	2024 年(令和 6 年)6 月 30 日(日) 13:00~15:30
場 所	明石市役所本庁舎8階 806会議室
出席者	石原会長、石山委員、齊藤委員、岡平委員、河田委員、楠目委員、瀬能委員 森田委員、小田委員、増田委員
議 事	<p>【報告事項】</p> <p>(1) 人口推移と市税収入 (2) 明石市の財政状況(これまでの財政状況等) (3) 明石市の財政状況(今後の見通し・目標案等)</p> <p>【審議事項】</p> <p>(4) 財政白書の具体的な策定方針 (5) 第3回検討会(市民参加型)の開催方法</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・明石市の財政状況 第1回・資料4 ・人口推移と市税収入 資料1 ・今後の財政収支見込み 資料2 ・財政白書の具体的な策定方針 資料3 ・第3回検討会(市民参加型)の開催方法 資料4 ・藤沢市財政白書 参考資料1 ・我孫子市財政白書 参考資料2 ・東京都北区財政白書 参考資料3 ・かんたんな決算の説明書(明石市) 参考資料4
事務局	総務局財務室財務担当、政策局SDGs共創室市民とつながる課

1 開 会

2 議事

(1)人口推移と市税収入

※事務局から資料説明(資料1)

(2)明石市の財政状況(これまでの財政状況等)

※事務局から資料説明(第1回・資料4)

(3)明石市の財政状況(今後の見通し・目標案等)

※事務局から資料説明(資料2)

[質疑応答]

(A委員)

- ・ 今後の収支見通しについて、2種類の人口推計に基づく収支見通しを作るにあたり、どのようなメッセージを伝えたいのかを明確にすることが重要である。2種類の人口推計を用いることで、2種類の収支見通しができているので、これを読んだ市民は混乱するかもしれない。だからこそ何を伝えたいのかを明確化してほしい。
- ・ 収支見通しの中で、地方交付税が減少するという事は、人口に伴う財政需要も減少するはずなので、本来であれば歳出にも動きが出るはずではないか。

(事務局)

- ・ 例えば、国の人口推計に基づく収支見込みのような動きになった場合には、効率的な財政運営による収支均衡や基金を維持していく取組が必要となってくる。そのため、市のSDGs推進計画に沿った施策をしっかりと実行していくことで人口を維持し、財政基金残高70億円、3基金残高100億円程度までは確保していくというメッセージは伝えられるようにしたい。

(B委員)

- ・ 第1回・資料4のP199で、明石市の基金が少ないことが示されているが、他市と比較してこの水準で大丈夫なのか。

(事務局)

- ・ P199の基金残高は、県内最低水準であり、市民1人あたり5万円となっている。一方、P204の市債残高は、市民1人あたり37万5千円、県下7位で少ない方である。
- ・ 市債残高から基金残高を差し引いた実質の額に直すと、県下平均では市民1人あたり約40万円である。明石市は約32万円なので、トータルで見ると県下では少ない方となる。よって、「基金が少ないから財政状況が悪い」ということにはならない。
- ・ 財政基金を除いた特定目的の基金については、本当に必要な額が積み上がってればよく、活用されていない基金であれば、積み立てるよりも市債残高を減らして支払利息を軽減するような財政運営を行う方が、コスト面から見ると適切であると考えている。

(会長)

- ・ 今年度は財政白書、来年度は公共施設に関する計画策定をしていくので、関連性を考えると投資的経費に目がいく。今後の財政推計によると、一般財源ベースではあるものの、投資的経費は20億円程度しかない。この投資的経費は市民の皆さんにも伝えていくべき情報だと思うが、この点についてはどのような考えで収支見込みを作っているのか。

(事務局)

- ・ 今後の財政推計においては、市債を借りる前提での試算なので、投資的経費の一般財源の金額は小さい。ただし、実際の財政運営においては、なるべく市債を借りないようにしている。そのため、投資的経費よりも、借金の返済である公債費を中心に見ていただければと思う。

(会長)

- ・ 市役所新庁舎やごみ処理施設整備における市債の充当率はどの程度か。

(事務局)

- ・ 市役所新庁舎、ごみ処理施設ともに90%。残り10%も、目的基金があるため、一般財源部分は基本的に基金で支払うことになる。

(会長)

- ・ 来年度の公共施設の計画策定に向けて、そのための財源を捻出できるのかというようなデータも少しは財政白書に載せておくべきだと思う。
- ・ 行政は投資をして将来の歳出を減らすという考えを持つ必要がある。もっと長期的に考え、一時的に歳出が増える取組でも、将来的には歳出が減ったり、市民の生活の質が向上するものもある。そういう考えを持ったうえで、「これだけの財源があるので、何にお金を使うべきか」というのが財政白書の1つの着地点ともなるのではないかと。そういう点が見えるようなとりまとめを心掛けてほしい。

(C委員)

- ・ 今回の財政白書のテーマは「わかりやすい」という部分かと思うが、市民の皆さんに財政白書を知っていただいて、明石に住んでいる誇りを持ったり、市外からの転入を増やしたりといった次の目的というのも財政白書のテーマとなると思う。
- ・ 今回の資料を見ていると、何十年後かに人口が減ってしまって市政運営が成り立たなくなってしまうことも危惧するが、そうなってしまう恐れはあるのか。

(事務局)

- ・ 財政推計を見ていただくと、すぐに財政的に立ち行かなくなるという状態ではない。国全体として人口減少が進んでいき、どの自治体も厳しい状況となったときに、国としてどう対処していくのかという問題。明石市の場合、当面は問題ないものと考えている。

(D委員)

- ・ P16の人口推計を見ても、少子高齢化が実感として伝わらなかったが、市のホームページの5歳ごとの人口推移を自分でグラフ化し、15年前と比べると実感できた。いくらこどもが増えても、高齢化のスピードには追い付かない。市民の方に実感してもらうには、グラフの見せ方も重要となる。

(会長)

- ・ 世帯の構成によって行政コストを示す方法もある。資料1は、年齢区分を15才～64才で区切っているが、最近では60代後半でも納税者は増えているだろうし、15才というのは若すぎると思う。一方で、明石市は若い人がたくさん住んでおり、それは子育て支援策や住環境などの要因にあると思う。このように、政策と併せて人口や行政コストを市民の皆さんにわかりやすく説明する方法もある。
- ・ 報告書を作るときに重要なことは簡潔であること。財政白書が分厚くなるほど、市民の皆

さんは読むのが大変になる。

(4)財政白書の具体的策定方針

※事務局から資料説明(資料3)

[質疑応答]

(E委員)

- ・ 文字や文章が多いと読みづらいので、パワーポイントでグラフや図を使う、他市比較を入れる、1つのトピックスに対してまず冒頭で伝えたいことを要約するといった工夫が必要である。

(会長)

- ・ 最近ではスマートフォンで通勤・通学時に隙間時間で読む人が多い。分厚い財政白書になると、いくらマンガや写真が入っていても、読んでもらえない。
- ・ 第1回・資料4のP266の図は視覚的に分かりやすい。このように2軸で比較する図を見せて、その意味を説明するという流れでスライドを作るといいのではないかと。市民の皆さんが読んで面白いと感じてもらえる話題で、短い時間でパッと読めるものをたくさん組み合わせるという方が若い人には受け入れられやすい。

(F委員)

- ・ 少ない文字数で最初に説明があり、その後にグラフがあるという簡潔なものが良い。マンガは確かに見やすいが、「財政とは」というマンガは読む気になってもらえるだろうか。例えば「明石市の財政は大丈夫なのか」のように、市民が興味を持つテーマをQ&A形式にし、それを深掘りするためのグラフを付けるという作りが良いのではと思う。

(G委員)

- ・ マンガは目に付きやすく、知識がない状態だと入口として入りやすい。「財政とは」で始まるマンガは確かに入りにくいですが、例えば有名なイラストレーターを起用してはどうか。この人が書いているなら見てみようという人もいると思う。

(会長)

- ・ 公募で財政のマスコットキャラクターを募集すると面白いかもしれない。あるいは明石市の資料で使われているキャラクター(時のわらし)に動きを出せるといい。

(C委員)

- ・ 最初にマンガでの情報があるだけで、その次に出てくる数字も頭に入ってきやすい印象がある。時のわらしは市民の皆さんに浸透しているのであえて変える必要はない。余白や行間がある方が見やすいので、ページを作る際には設定を意識した方がよい。

(H委員)

- ・ 藤沢市の財政白書が読みやすい。財政を深く知りたいという人であればもう少し分厚いものがよいが、分かりやすすぎでいうと藤沢市が優れている。入門編のこども向けの部分は大人が読んでも分かりやすい。また、明石市のかんたんな決算もシンプルだし、表紙のキャラクターがかわいいので手に取ってもらいやすい。
- ・ 若い人を取り込みたいのであればYOUTUBE配信も良い。

(会長)

- ・ 藤沢市は最後に企業広告が入っており、製作費の一部が広告収入で賄われている。
- ・ 読んでもらうターゲットとしては中学生ぐらいでどうか。
- ・ コンテンツができれば、ゆくゆくはYOUTUBE配信もひとつの選択肢と考える。

(B委員)

- ・ それぞれのテーマの冒頭に、市民が知りたいと思うQと、その回答となるAを入れて、スライド2～3枚程度で見たい形が良い。
- ・ わかりやすいことは大事だが、財政白書である以上、ある程度内容の充実も必要である。例えば、最後に資料編を作り、本編とは分けて詳細を説明する方法もある。

(会長)

- ・ ボランティアやマンガ家の卵にマンガを描いてもらい、協力者として財政白書に掲載する方法もある。いずれにせよ、委員の皆さんのマンガの評価は高いように思う。

(H委員)

- ・ 先生となるキャラクターがいて、市民が知りたい質問に対して答えていくというやりとりがあると良い。例えば、財政の担当者が、明石市の財政について何でも教えてくれるというようなもの。

(A委員)

- ・ 皆さんの意見を聞いていて、問いかけになっているものは確かに分かりやすいと思った。財政に興味がない人でも、最初にゴールを提示することで、何について書いているのかが分かれば読みやすいと思う。例えば、公共施設の状況に加えて、年数・負担を併せて見ていく必要があるときに、冒頭でそれを提示してあげると頭に入りやすい。
- ・ 文字が多すぎると読みづらいという意見もあったので、例えば「日本一文字が少ない財政白書」のように、他にはないものに挑戦していくのも面白いと思う。

(I委員)

- ・ 資料1の人口推移と市税収入は面白いと思う。元々は委員から出た疑問だったが、住んでいて感じることや疑問点を財政の視点から見るという切り口で構成するのも面白い。

(C委員)

- ・ デザインというのは投資であり、必要となるお金をかけて作って、それがみんなに読まれ

ることで将来に良い効果が見込まれるのであれば、今しっかりとやっておくべきだと思う。

(会長)

- ・ 今まで出た意見をとりまとめる。
- ・ 藤沢市の財政白書は、全体的に評価が高い。
- ・ キーワードとしては、簡潔、短め、図表やグラフ、マンガ、問いかけ。問いかけであればコラム的なものも大事。
- ・ 読み手のターゲットとしては、中学生あたりが良い。

(D委員)

- ・ 資料2のP9にある基金残高については、この10年間での大きな成果である。悪化していた財政が改善したということをも市民の皆さんにも分かってもらいたい。
- ・ 今まで取り組んできた経費の削減や人件費の削減による成果は、堂々と財政白書に盛り込めばよいと思う。

(5)第3回検討会(市民参加型)の開催方法

※事務局から資料説明(資料4)

- ・ 第3回公開検討会で一般参加の市民と話し合うテーマ及びテーブルの班分けは事務局に一任することを決定。

(I委員)

- ・ 第3回検討会で予定している検討委員による審議と、その後のワークショップはどのような繋がりがあるのか。

(事務局)

- ・ 直接的な繋がりはないが、検討会委員による審議の様子を見ていただき、そこで感じたことを含め、その後のワークショップで意見交換してもらうことを想定している。

3 その他(事務連絡)

4 閉会